

平成29年度全国学力・学習状況調査

概 要

平成29年4月18日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。

この調査の目的は、以下のとおりです。

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。

実施の状況

(1) 調査の対象 小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒

(2) 調査内容 教科に関する調査

国語、算数・数学の2教科

国語及び算数・数学については、A・B2種類の調査がある。

A・・・主として「知識」に関する問題

B・・・主として「活用」に関する問題

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

教科に関する調査結果

【調査結果の見方】

「町平均」の数値は、平成29年度全国学力・学習状況調査において、猪名川町内の小学校6年生と中学校3年生それぞれの児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

「全国平均」の数値は、平成29年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の公立小中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

分析の基準

「町平均」と「全国平均」との比較に関しては、以下の基準で表現しています。

平均正答率を全国と比較

- ・ +5.0ポイントより高い 「上回る」「良好である」等
- ・ -5.0ポイントより低い 「下回る」「課題がある」等
- ・ ±5.0ポイント以内 「±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない」

猪名川町の児童生徒は、国語、算数・数学ともに、今回出題された学習内容をおおむね理解しているものの、全国の傾向と同様に、「知識」に比べて「活用」(知識や技能を活用する力、応用力)にやや課題が見られます。また、小学校において、無回答率が全国平均より高い問題が多いのも課題です。

【小学校】6年生

教科	町平均正答率	全国(公立) 平均正答率	全国との差
国語 A	71%	74.8%	-4ポイント
国語 B	55%	57.5%	-3ポイント
算数 A	74%	78.6%	-5ポイント
算数 B	43%	45.9%	-3ポイント

国語 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない(各領域とも)。 ・設問別に見ると、「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む・書く」問題(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)や、「手紙の校正を理解し、後付けを書く」問題(書くこと)に課題がある。
国語 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない(各領域とも)。 ・設問別に見ると、「目的や意図に応じ、話の構成や内容を工夫し、適切な言葉遣いで話す」問題(話すこと・聞くこと)に課題がある。
算数 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない。 ・「数と計算」、「数量関係」の領域が全国を下回り、課題がある。 ・設問別に見ると、「1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す」問題、「加法と乗法の混合した整数と少数の計算をする」問題、「商を分数で表す」問題(以上、数と計算)、「高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解する」問題(量と測定)、「資料から、二次元表の合計欄に入る数を書く」問題(数量関係)の正答率が全国平均を下回り、課題がある。
算数 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない(各領域とも)。 ・設問別に見ると、「示された条件を基に、適切な式を立てる」問題(数と計算)や、「示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述する」問題、「割合を比較するという目的に達したグラフを選ぶ」問題(以上、数量関係)の正答率が全国を下回り、課題がある。

【中学校】3年生

教科	町平均正答率	全国（公立） 平均正答率	全国との差
国語 A	78%	77.4%	+1ポイント
国語 B	73%	72.2%	+1ポイント
数学 A	66%	64.6%	+1ポイント
数学 B	49%	48.1%	+1ポイント

国語 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、± 5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「文脈に即して漢字を正しく書く（組織の主張を大きくする）」問題や、「古典作品の種類として適切なものを選択する」問題（以上、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）の正答率が全国を上回っている。しかし、「楷書と行書の違いを理解する」問題（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）や、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」（話すこと・聞くこと）問題の正答率が全国を下回り、課題がある。
国語 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、± 5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「必要な情報を集めるための見通しを持ち、そう考えた理由を書く」問題（書くこと）の正答率が全国を上回っている。
数学 A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、± 5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「数量の関係を文字式で表す」問題（数と式）や、「円柱の体積を求める」問題、「証明で用いられている三角形の合同条件を書く」問題（以上、図形）、「反比例の表から比例定数を求める」問題（関数）の正答率が全国を上回っている。しかし、「範囲の意味を理解しているか」を問う問題（資料の活用）については、全国と同様、正答率が低く、課題がある。
数学 B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果は、± 5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない。 ・4領域のうち、「関数」の領域において正答率が全国を上回っている。 ・設問別に見ると、「与えられた式から、aの変域に対するbの変域を求める」問題（関数）において、正答率が全国を上回っている。しかし、全国と同様、「2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する」問題（図形）や、「事象と式の対応を的確にとらえ、事象が成り立つ理由を説明する」問題（数と式）、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題（資料の活用）には課題がある。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果

基本的な生活習慣、学習に関する関心・意欲・態度、家庭でのコミュニケーション、規範意識など小学校は92の項目、中学校は94の項目について調査が行われました。

この調査の結果は、以下のとおりです。

なお、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国平均と比べて+5.0ポイントより高いものを「肯定的な回答が多かった質問」、-5.0ポイントより低いものを「肯定的な回答が少なかった質問」として挙げています。

【小学校】

全体的な傾向

「総合的な学習への関心」「学習習慣」についての評価が低い。

肯定的な回答が多かった質問

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
- ・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」
- ・「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」
- ・「国語の勉強は好きですか」

肯定的な回答が少なかった質問

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」
- ・「普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか」
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」（「30分未満」と答えた児童の割合が多い）
- ・「土・日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師含む）」（「1時間以上」と回答した児童の割合が少なく、「全くしない」と答えた児童の割合が多い）
- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」
- ・「家で、学校の授業の予習をしていますか」
- ・「家で、学校の授業の復習をしていますか」
- ・「学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」
- ・「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」
- ・「先生は、あなたのようなところを認めてくれていると思いますか」
- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか」
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」
- ・「学校のきまりを守っていますか」

- ・「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」
- ・「5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業の最後に学習活動を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」
- ・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」
- ・「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」
- ・「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」
- ・「算数の授業の内容はよく分かりますか」
- ・「調査問題の解答時間は十分でしたか」：国語A、国語B、算数A
（やや足りなかった、全く足りなかったと回答した児童の割合）

その他

- ・学習塾に通っている（家庭教師を含む）児童の割合
猪名川町：54.0% 全国：45.8%

【中学校】

全体的な傾向

「数学への関心」についての評価が高い。

肯定的な回答が多かった質問

- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」
- ・「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」
- ・「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか」
- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
- ・「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題があったが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」
- ・「数学ができるようになりたいと思いますか」
- ・「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」

肯定的な回答が少なかった質問

- ・「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか」
- ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」
(「1時間以上」と回答した生徒の割合が少ない)
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」
(「全くしない」と回答した生徒の割合が多い)
- ・「家で、学校の授業の復習をしていますか」
- ・「学級会などの話合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」
- ・「先生は、あなたのようにところを認めてくれていると思いますか」
- ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」
- ・「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容

を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」

- ・「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」
- ・「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」
- ・「読書は好きですか」
- ・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」
- ・「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」
- ・「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」

その他

- ・学習塾に通っている（家庭教師を含む）生徒の割合
猪名川町：65.6% 全国：61.4%

猪名川町の学力向上の取組について

猪名川町教育委員会では、学力向上に特化した施策として策定した「いなぼう学力アッププラン（猪名川町学力向上プラン）」（平成29年4月施行）に基づき、各学校・園において、教員の授業力向上を図るとともに、子どもたち一人一人の学力を確実に身に付けさせる「一人も見捨てない教育」を推進しています。また、今回の調査結果や過去の調査結果を基に、猪名川町の児童生徒の学力向上のため、継続的な検証改善に努めてまいります。

キャリア教育の推進【継続】

子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために、幼・小・中学校園の11年間をかけて「キャリア教育」を推進します。

また、「なぜ学ぶのか」という意義を、自分の夢や目標、将来像と結び付けてしっかりと認識させ、その実現に向けて努力しようとする態度を培います。

さらに、子どもたちが学ぶことの意義を実感し、将来の生き方を見付けられるよう、子どもたちの内面的な成長を支援して教育活動を推進することにより、目的意識、学習意欲の高揚を図り、学力の定着を目指します。

英語教育強化推進事業（幼稚園・小学校へのALT派遣事業、小学校教員英語指導力向上事業）【平成29年度新規】

グローバル化が加速する社会の中であって、豊かな語学力・コミュニケーション能力、異文化理解の精神を身に付けた、国際的に活躍できる人材の育成が必要な時代が到来しています。このことから、本町では、幼稚園及び小学校にALTを派遣し、英語に慣れ親しむ機会を設けるとともに、小学校3・4年における外国語（英語）活動、5・6年における英語の教科化の本格実施に先立ち、先行実施に取り組んでいます。

また、平成32年度から小学校5・6年に英語が教科化になり、3・4年に外国語活動が導入されることから、小学校教員の英語に対する苦手意識を払拭し、教員自身の英語コミュニケーション能力を高め、英語の指導力を向上させるため、兵庫教育大学等と連携して英語指導の講師を招へいし、実践的な英語指導法の研修を実施しています。

教育情報化推進事業（学校ICTの整備）【拡充】

小・中学校の教室にすでに配備している電子黒板機能付き大型ディスプレイ（テレビ、プロジェクター）、実物投影機、タブレット端末を各教科の授業等において積極的に活用することにより、児童生徒にとって分かりやすく学習意欲の高まる授業を実施するとともに、児童生徒が電子黒板やタブレット端末を活用して意見交換や発表をするなど、互いに高め合う学びを通じて、思考力・判断力・表現力などの育成を図ります。

また、児童生徒用タブレット端末の整備を更に拡充させ、学校ICTによる学習環境を充実させます。

さらに、効果的な活用のために、教員の研修・研究を推進し、子どもたちが学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を実践します。

いなぼうチャレンジ オンライン学習【継続】

様々な事情により、家庭学習が不十分なため、学力が定着しない児童生徒が少なからずいます。学校外における学習環境の不均衡を緩和し、自主的に学ぶ姿勢を身に付けさ

せて児童生徒の進路を保障するため、平成28年度より、町内全中学校の生徒を対象にオンライン学習サービス（いなぼうチャレンジ オンライン学習）を導入しています。各家庭等においてパソコンやタブレット端末などを使用した家庭学習に取り組むことができます。

また、インターネット環境が整っていない生徒や学習につまずきのある生徒を対象として、放課後等の時間帯に学校へオンライン学習指導員を派遣し、オンライン学習の支援を行い、学力の底上げに取り組んでいます。

読書活動の推進【継続】

全国学力・学習状況調査の分析の結果、「読書活動」の推進が学力向上につながるということが明らかになっていることから、各校における読書活動の更なる推進を図ります。

そのため町立小・中学校全校に学校図書館専任の「学校図書館司書」または「学校図書館支援員」を配置しています。

町学習到達度調査の実施及び活用【継続】

全小5児童（国・算）・中2生徒（国・数・英）を対象に、町独自で学習到達度調査を実施するとともに、調査結果を分析し、学習評価支援システムを有効活用することにより、児童生徒の学力向上を図っています。

また、児童生徒の家庭・学校・地域における生活実態調査を実施し、その結果も併せて分析し、児童生徒の学習支援に役立てます。

いなぼう学習タイム～放課後の補充学習における学習サポーター派遣事業～【継続】

小・中学校の児童生徒の学力向上に向けて、小学校においては国語・算数、中学校においては国語・数学・英語の各教科の基礎・基本の定着に課題のある児童生徒への個別の学習支援が必要と考えています。

このことから、小・中学校を対象に、放課後における補充学習の時間に、「学習サポーター」を派遣し、児童生徒への適切な学習支援を行い、基礎・基本の確実な定着を図っています。

町教育委員会による学力向上に係る研究指定の推進【継続】

学力向上に係る研究指定を更に推進するため、町教委として学力向上に係る研究指定の拡充を図っていきます。

「ICTを活用した授業づくり推進校」、「英語教育推進校」、「ふるさとづくり（ESD）推進校」等

町教育委員会主催 学力向上研修会・講演会の開催【継続】

各校の全国学力・学習状況調査や町学習到達度調査の結果を踏まえて、取組状況を交流しています。そして、本研修会に参加した教員を中心に、各校において組織的に学力向上の取組を推進します。

また、学力向上に係る専門の講師を招へいし、学校・園の教員を対象に学力向上に特化した講演会を開催し、学力向上の方策について研修を深めています。

授業（保育）のユニバーサルデザイン化の推進【継続】

町内全幼稚園、小学校、中学校において、「授業（保育）のユニバーサルデザイン化」を推進することにより、「どの幼児児童生徒も分かる・できる授業（保育）」を目指し、全ての幼児児童生徒の学力向上を図っています。

授業力向上のための講師派遣の推進【継続】

若手教員や臨時的任用教員等の授業力向上を図るために、各校において専門の講師を招へいして、指導助言を受けることにより、授業力のレベルアップを目指します。

校（園）内授業（保育）研究への支援【継続】

学校・園からの要請に応じて、幼稚園、小・中学校へ学校教育指導員及び指導主事を派遣し、授業（保育）づくりや教員としての基礎・基本の指導を行うとともに、学力アップにつながる指導法について助言を行っています。

教育支援センターの研修機能の充実【継続】

若手教員を中心に教員の授業力向上を更に進めるために、教育支援センター主催で、長期休業中などを利用して、授業力向上研修講座を設け、専門の講師から「授業づくりの基礎・基本」についての講話や指導助言を受ける機会を設けるなど、教育支援センターの研修機能の充実を図ります。

少人数授業・同室複数指導及び小学校における交換授業の推進【継続】

県教育委員会の新学習システムの制度を活用し、少人数による授業・同室複数指導による授業の推進しています。また、小学校においては、中学校での教科担任制への円滑な接続を図るため、5・6年において一部の授業を交換することによる教科担任制を推進しています。

幼・小・中連携の強化【継続】

各中学校ブロックにおいて、幼稚園、小学校、中学校の連携を強化し、11年間を通してブロック内の全教員が全幼児児童生徒の学力向上に取り組んでいます。

児童生徒の生活習慣・食生活改善の推進【継続】

小学校4年生及び中学校2年生を対象に、「生活習慣・食生活に関するアンケート」を実施するとともに、アンケート結果を分析し、その分析結果を基に各小・中学校において、児童生徒や保護者を対象に専門医による講演会を開催し、児童生徒の生活習慣や食生活の改善を図られるよう啓発を行っています。このことにより、児童生徒が授業や学習に集中して取り組めるという効果が期待できます。

スクールソーシャルワーカーの配置・派遣【継続】

学校において校内ケース会議を開催し、社会福祉を専門とするスクールソーシャルワーカーによる助言を得ながら、児童生徒を取り巻く生活環境を含めたアセスメント（見立て）と問題解決のプランニング（手立て）を行い、学校や家庭及び関係機関の連携による適切な支援を行うとともに、校内支援体制の強化及び教職員の指導力・対応力の向上を図っています。このことにより、児童生徒が落ち着いて学習できる環境を整備します。

中学校における教育・心理テスト（Hyper-QU）の実施及び活用の推進【継続】

中学校の全生徒を対象に、年2回「教育・心理テスト（Hyper-QU）」を実施するとともに、分析結果を基に、教職員の研修を行い、学級指導や個別指導に生かしていくことにより、いじめ、不登校、学級崩壊等を未然に防止し、集中して学習に取り組める学習環境づくりに努めています。

スクールカウンセラーの配置【継続】

保護者や児童生徒の不安や悩みを解消するとともに、いじめや不登校等を解消するこ

とにより、家庭等において学習できる環境づくりに努めています。

学生スクールサポーターの派遣【継続】

学生に特化した本事業について、更に「スチューデント・バンク」への登録者を確保するとともに、学校における学習支援の充実を図ります。

②1 学校支援ボランティアの派遣【継続】

学生や、地域住民による学校支援ボランティアを学校・園へ派遣し、学習支援を図ります。

各学校においても、学校全体や児童生徒個々の結果を全国や町の結果と比較・分析し、児童生徒の実態把握に努めています。そして、各校においてこれまで取り組んできた教育活動の成果を検証し、全ての子どもにとって分かりやすい授業づくりに努めています。

学力向上のための今後の改善方策について

【猪名川町の学力の課題】

平成29年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生対象）結果及び過去数年間の同調査結果、猪名川町学習到達度調査（小学5年生、中学2年生対象）の結果から、猪名川町の児童生徒の学力と学習習慣について、次のような課題があることが判明しました。

- ・全国と同様、「知識」に比べて「活用」（知識や技能を活用する力、応用力）に課題がある。[小学校、中学校]
- ・無回答率が全国平均よりも高い。[小学校]
- ・学力低下の傾向が見られる。[小学校、中学校]
- ・家庭学習量が全国と比べて少ない。（特に学校の授業の復習）[小学校、中学校]
- ・読書量が少ない。[中学校]

【これまで効果のあった取組】

全国学力・学習状況調査結果及び猪名川町学習到達度調査結果を同一集団内で経年比較した結果、学力向上に特に効果があったのは、次の取組でした。

- ・放課後学習（いなぼう学習タイム）
- ・新学習システムの充実による少人数授業・同室複数指導等、個に応じた丁寧な指導

【今後の改善方策】

以上の結果から、以下の改善方策に重点的に取り組み、児童生徒の学力向上に努めていきます。

授業改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」の推進
- ・「めあて」「見通し」の提示や、授業の終わりの「振り返り活動」の推進

家庭学習の定着

- ・宿題の量や出し方の工夫
- ・放課後学習の充実・拡充
- ・家庭との連携の推進
- ・いなぼうチャレンジ・オンライン学習の推進 [中学校]

読書活動の推進

- ・学校図書館の充実